

雪崩講習会 冬の編 2025 (報告)

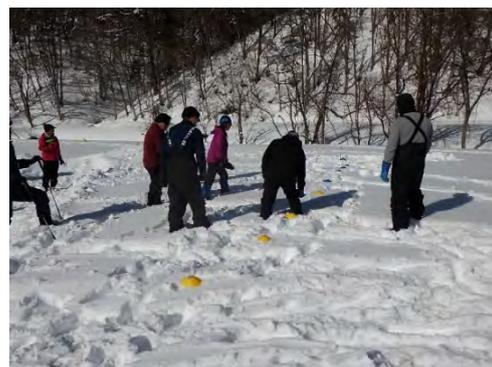
- ◆ 共 催：茨城県山岳連盟、(一社)栃木県山岳・スポーツクライミング連盟、南東北雪崩研究会
- ◆ 日 時：2025年(令和7年)1月19日(日) 9:00～16:00
- ◆ 場 所：民宿すがや様、南郷スキー場(福島県南会津郡南会津町)
※場所については現地在住講師の尽力で講習会趣意にご賛同いただき地権者様を含めてご協力をいただいている。
- ◆ 受講生：5名(茨城県山岳連盟関係者からの参加者は無し)
- ◆ 講 師：10名

本年度も昨年に続き茨城県山岳連盟、栃木県山岳・スポーツクライミング連盟、南東北雪崩研究会共催で雪崩救助のスキルを身につける目的を掲げた講習会に茨城岳連から講師として宮下が派遣された。南郷スキー場からほど近い『民宿すがや』様の広間をお借りした屋内講習は雪崩事故の実態、雪崩搜索救助の流れを講義の後、雪の科学と題してわたくしも所属する南東北雪崩研究会で雪崩遭難防止活動を共にする荒川氏(国立研究開発法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター)を講師に雪の自然現象を科学者として普段の生活にも結びつく面白い話題も織り交ぜながら興味深いお話で雪崩に関して見識を広めた。その後、南郷スキー場に場所を移した屋外実技は、雪崩ビーコンを用いグループチェック、埋没者の搜索手法(シグナルサーチ、コースサーチ、フィンサーチ)を反復し、埋没者を特定してから掘出をするプロービング、シャベリングまで雪崩搜索の基本動作を行った。続けて人の大きさ・重量感まで見立てたザックを背負った人形を雪の中に深く埋没させ実際に受講者で掘出してもらい状況評価から救助要請などの対処方法を学び雪崩搜索救助の難しさを実感してもらった。最後は講習のまとめとして会場全域(40m×70m)を使い実際の雪崩事故を想定し、他のパーティーが雪崩に巻き込まれ近くにいた受講生パーティーが搜索救助するという模擬訓練を実施し一日の振り返りとした。

今回は参加者が少なく一対一のきめ細やかな充実した指導ができたと思われ、特に記憶に新しい雪崩事故があった栃木県からの参加者は受講に対する意識が高かった。一方、積雪の関係上会場が遠方になるとはゆえ、茨城岳連関係者からの参加は皆無で雪山には必携の雪崩装備(雪崩ビーコン、プローブ、シャベル)の重要性、雪崩搜索の最新技術を伝えられなかったことが気がかりである。



屋内講習



雪崩ビーコン搜索



シャベリング(掘出し)



搜索模擬訓練